

2026年 8月 19日

豊橋技術科学大学長 殿

学位審査委員会
委員長 中澤 祥二

建築・都市システム学専攻

論文審査及び最終試験の結果報告

このことについて、博士学位論文審査を実施し、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	Muhammad Yogi Raditya	学籍番号	第239505号
申請学位	博士（工学）	専攻名	大学院工学研究科博士後期課程 建築・都市システム学専攻
博士学位 論文名	Historic District Preservation Approach by Identifying the Authenticity from the Past Graphic Information in Developing Country（発展途上国における過去の画像情報を基にした建物デザインの真正性の特定と歴史的市街地保全への適用）		
論文審査の 期間	2026年 7月 16日 ～ 2026年 8月 19日		
公開審査会 の日	2026年 8月 18日	最終試験の 実施日	2026年 8月18日
論文審査の 結果※	合格	最終試験の 結果※	合格
審査委員会(学位規程第6条) 学位申請者にかかる博士学位論文について、論文審査、公開審査会及び最終試験を行い、別紙論文内容の要旨及び審査結果の要旨のとおり確認したので、学位審査委員会に報告します。 委員長 渋澤 博幸 委員 小野 悠 浅野 純一郎			

※論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。

論文内容の要旨

本研究は、発展途上国における歴史的建築物や街並みの保全の前段として必須である、真正性特定に関わる新たな手法を提案し、それを実際の都市に適用しその有用性を示したものである。具体的には個別の建物や街並みの過去のグラフィックデータ（絵画や写真）を活用し、都市・地域レベルで微妙に異なる建築様式の真正性を、マカッサル市を事例に明らかにしている。

第一章では、研究の背景や目的、構成や位置付けが明らかにされている。

第二章では、既往研究のレビューを通じ、本研究の独自性が示されると同時に、インドネシアや東南アジア各国における建築様式の展開経過が明らかにされている。

第三章では、研究対象地区の概要や歴史的市街地の変遷、インドネシアやマカッサル市の歴史的建築物及び街並み保全に関わる法制度が明らかにされている。

第四章では、マカッサル市におけるオランダ植民地時代の建築物を対象とし、過去のグラフィックデータを参照することでその真正性を明らかにすると共に、各建築物の様式を特定している。

第五章では、マカッサル市の中華街を対象とし、歴史的建築物についてファサードの過去のグラフィックデータから各建物の真正性の捉え方を明らかにしている。

第六章では、オランダ植民地時代の歴史的建築物及び中華街の歴史的街並みの中で、残存している建築物を対象として、当初デザインからの変更部位や変更パターンを明らかにしている。

第七章では、全体を総括し、真正性の捉え方や建物様式の特定を歴史的建築物や街並みの保護・保全に活かすための課題と今後のあり方を論じている。

審査結果の要旨

本研究は、発展途上国における歴史的建築物や街並みの保全の前段として必須である、真正性特定に関わる新たな手法を提案し、それを実際の都市に適用し方法の有用性を示したものである。発展途上国では一般に歴史的な建築物や街並みの保護・保全や維持・管理は遅れており、自国の建築史研究の蓄積も地方レベルでは非常に浅い。こうした現状に照らし、本研究の成果は以下の3点から高く評価される。

第一に、過去のグラフィックデータを悉皆的に収集し、これを検討材料とすることで当該都市や地域レベルでの歴史的建築物の真正性の特定が可能であることを示した点である。発展途上国都市の場合、すでに失われた建築や大きく改変された建築が多く、保護・保全の前提となる真正性が不透明な中、その捉え方に新たな方法論を現実的に可能な手法として提案した点是有用性が高く、オリジナリティが明快である。

第二に、マカッサル市における歴史的建築物の各様式を、インドネシアや東南アジア諸国での一般の様式理解と照合する形でその建築時期と合わせて特定した点である。多民族・多文化国家であるインドネシアの場合、都市や地域によって建築様式は微妙に異なることが想定されるが、本研究はマカッサル市を事例に、地域レベルの様式特定を初めて行った。

第三に、中華街の歴史的建築物を対象として、そのデザイン特性を、ファサードを構成する部位（開口部、戸や扉、ベランダ、ペディメント等）から詳細に分類し、これを真正性の見方として示した点である。中華街の歴史的建築物は所有者が華僑であることを根拠に中華街等と、領域特定されているが、実際の建築物は西洋建築等のデザインコードが組み合わされて用いられており、中華街の歴史的建築物としての見方が一定していなかった。本研究ではこの現状に対し、新たな視点を提示した。

以上より、本論文は博士（工学）の学位に相当するものと判定した。